

2009年度見学会 大阪渡船巡り 報告

大阪市内には、大阪港の天保山をはじめ、現在でも全部で8ヶ所に渡船場があります。これら渡船場のほとんどは大正区の周辺、木津川、尻無川にあり、大阪市民の身近な交通手段として毎日利用されています。このように限られた範囲に多数の渡船場が設けられているのは国内では珍しく、大阪市だけであり、その現状を実際に確かめるため、見学会を開催しました。

見学会は2009年10月24日(土)に実施されました。見学会では、午前の部に5ヶ所、午後の部で3ヶ所の渡船場を徒歩で巡りました。参加者は17名、うち午後の部も参加されて全8ヶ所を踏破したのは14名でした。大正区役所前のバス停を起点にし、落合上、落合下、千本松、木津川、船町、千歳、甚兵衛、天保山の順に各渡船場で渡船を乗り継ぎ、終点のJR桜島駅まで約15kmの市内ハイキングを行いました。

各渡船場では、河川を通行する船舶のために橋を架けられない、あるいは高い位置に橋が架けられており自転車や徒歩では渡るのが大変そうなどといった地理的要因から渡船が必要とされること。また、通勤客や野球ユニフォーム姿の子供たち、車椅子の年配の方といった乗船客から、各渡船が日常生活の足として定着している様子。そういった実際を目にすることで渡船の利便性を理解できました。渡船の利用客数は結構あり、我々一行が乗船すると渡船がほぼ満員状態になることもありました。また、我々以外にも渡船巡りをしているグループを幾組か見かけ、大阪の渡船巡りがちょっとしたブームになっているようでした。

また、渡船以外でも、千本松、木津川渡船場間の木津川左岸沿いでは、参加者の方より、ここにかつて多くの造船所が並んでいて、「造船所通り」と呼ばれていた頃のお話を伺ったり、昔あった造船所名を刻んだ石碑を発見したりしました。大阪の渡船の今を知るだけでなく、往時の造船業にも思いをはせる有意義な秋の一日となったと思います。

(記 会務委員 飯田 隆)

